

第1学年1組 生活科学習指導案

授業日 11月2日(金)

場所 プレイルーム

授業者 宮地 聡子

1 単元名

「えがおがいっぱい」～おしごとだいさくせん～

2 単元の内容

(1) 単元について

家庭は児童にとって生活の場であり、自分を支えてくれるよりどころである。しかし、一方で家庭は、児童にとってあまりにも当たり前存在であるため、家族や自分の役割、家族の愛情やありがたさに気付いていないことが多い。

そこで、本単元では、学校職員の仕事を知ることきっかけに、家庭での仕事調べを経て、自分が家族のためにできることを考え、挑戦してみるという活動を中心に単元を設定した。これらの活動を通して、家族における自分の役割や、自分の成長を支えてくれる家族の存在に気づき、感謝の気持ちをもつことができるようにしていきたい。人はがんばった自分自身の姿を他者に認められることによって、自分は家族のために役立っていることや、家族に愛されている（大事にされている）ことを実感できる。家族のためにがんばることができた自分の姿を客観的に見つめることを通して、自分自身の成長を自覚させ、意欲と自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする児童を育てていきたい。

(2) 育成を目指す資質・能力

育てたい資質・能力	具体的な内容
知識及び技能の基礎	・学校探検や職員との関わりを通して得られた、学校で働く人の存在やその役割についての気づき（1） ・家族との関わりを通して、互いに支え合っていることが分かる。（2） ・家庭の仕事を通して、自分ができるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる。（9）
思考力、判断力、表現力等の基礎	・学校生活の中で、自分たちの安全を守っている先生方や職員について考える。（1） ・家庭の仕事の中で、自分に何が出来るか、どんなやり方があるのかを考える。（2） ・家庭の仕事を通して、自分のことや支えてくれた家族について考える。（9）
学びに向かう力、人間性等	・家庭生活の上で、自分の役割を積極的に果たそうとする。（2） ・成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、意欲的に生活しようとする。（9）

*（ ）は、生活科学習指導要領の内容を表す。

(3) 活用する他教科の資質・能力

項目	具体的な内容
他教科の見方・考え方	・「こんなことをしたよ」体験したことを思い出して書く。（国語） ・「はなそう、きこう」相手に質問したり、興味をもって聞いたりする。（国語） ・「しらせたいな、見せたいな」短冊カード（付箋）に項目ごとに書き分ける。（国語） ・「なかまづくりとかず」仕事の数を表にまとめることで分類する。（算数）

3 単元の計画

学習活動（学びのプロセスの位置づけ）	育てたい力との関連
<p>（１）気づきの共有①（１時）</p> <p>○1 学期の学校探検を振り返り，先生方や学校職員のことをもっと知りたいという気持ちを高める。1 学期の学びとつなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 学期の振り返りとして，教室クイズや道具クイズをする。 ・知っている先生方の名前を挙げたり，先生クイズをしたりする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>思い・願い ・どんな先生がいるのか知りたい。 ・先生たちにインタビューしてみたい。</p> </div>	<p>○知識及び技能の基礎</p> <p>1 学期の学校探検で気付いた教室と道具の関係性を想起している。</p> <p>○学びに向かう力，人間性等</p> <p>保内小への愛着をもち，知っている先生や職員の名前を挙げている。</p>
<p>（２）具体的な活動・体験①（２～４時）</p> <p>○インタビューの準備をしたり練習をしたりして，意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの先生や職員にインタビューしたいか考える。 ・質問したいことを考える。 ・インタビューの練習をする。 <p>○先生方や学校職員にインタビューをする。<u>（授業時間外に設定）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備した質問項目に沿ってインタビューをし，担当した先生のことを詳しく知る。 <p>○主に授業を行う学級担任（級外を含む）と，養護教諭，事務職員，栄養職員，技能員等の職員との違いに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー内容をもとにカードを書き，先生方を紹介し合う。 ・先生方がどんな仕事をしているのかをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>思い・願い ・技能員の松本さんの話を詳しく聞きたい。</p> </div>	<p>○学びに向かう力，人間性等</p> <p>学校で仕事をしている職員に，自分から進んで関わろうとしている。</p> <p>○思考力，判断力，表現力等の基礎</p> <p>学年の仲間や職員と適切にコミュニケーションを図ったり，交流したりしようとしている。</p> <p>○知識及び技能の基礎</p> <p>学校で働く人の存在やその役割について気付いている。</p> <p>○思考力，判断力，表現力等の基礎</p> <p>職員について発見したことや感じたことを適切に表現している。</p>
<p>（３）主体的・自覚的な活動・体験①（５時）</p> <p>○先生方や学校職員は，自分たちが安心，安全に学校生活を送るために仕事をしてきていることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本さんにインタビューした児童が，自分が聞き取ったことをもとに松本さんの紹介をする。 ・松本さん本人から，仕事内容について詳しく話を聞く。 ・松本さんは『学校の何でも屋さん』であり，自分たちの安全を守ってくれているのだと気付く。 ・他の職員の役割にも触れ，仕事内容は違ってもそれぞれの『思い』をもって，自分たちの安心，安全のために働いているこ 	<p>○知識及び技能の基礎</p> <p>技能員の役割について気付いている。</p> <p>○思考力，判断力，表現力等の基礎</p> <p>技能員をはじめ，先生方や学校職員について，発見したことや感じたことを適切に表現している。</p>

<p>とに気付く。</p> <p>思い・願い ・家では誰が仕事をしているのかな。</p>	
<p>(4) 気付きの共有② (6時)</p> <p>○家庭での仕事調べ <u>(授業時間外に設定)</u> を通して、学校と同じように家庭でも自分たちのために仕事をしている人の存在に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本さんや先生方と同じように、家庭でも自分たちのために仕事をしている人はいないか考える。 ・家庭での仕事調べを通して、家族の誰がどんな仕事をしているのか表を作って分類する。 ・仕事の分担には偏りがあり、自分がしている仕事が少ない(または全くない)ことに気付く。 ・1学期の「係決め」の経験を想起させる。 (係がないとみんなが困る。道徳「ぼく黒板だよ」) <p>経験とつなぐ</p> <p>教科とつなぐ</p> <p>思い・願い ・家の仕事をしてみたい。</p>	<p>○学びに向かう力, 人間性等</p> <p>進んで仕事調べをしようとしている。</p>
<p>(5) 具体的な活動・体験② (7～8時)『チャレンジ活動』</p> <p>○家の仕事の中から一つ(初めてチャレンジするもの)決めて、取り組んでみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みにお家の人のお手伝いをしたことを想起させる。 ・家の人と相談して、どんな仕事ができそうか考える。 ・家の人にやり方を聞いて一緒にやってみたり、できないところを助けてもらったりしながら、一人で「チャレンジ活動」をやってみる <u>(授業時間外に設定)</u>。 ・可能な範囲で一人でできたこと、お家の人に褒められたことで、満足感を得る。 	<p>○思考力, 判断力, 表現力等の基礎</p> <p>自分に何ができるか、どんなやり方があるか考えている。</p> <p>○学びに向かう力, 人間性等</p> <p>進んで仕事をしようとして計画を立てている。</p> <p>○知識及び技能の基礎</p> <p>自分が家族によって支えられていることに気付いている。</p>
<p>(6) 気付きの共有③ (9～10時)</p> <p>○チャレンジ活動報告会を経て、2回目の「パワーアップ大作戦」に向けた準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくできたこととできなかったことを分類したり、仕事をしているときの気持ちを整理したりする。 ・家の人からのアドバイスカードを読み、再度自分の仕事を振り返り、どうすればうまくできるようになるかを考える。 ・仕事別にグループを作り、互いにアドバイスしあえるようにする。 ・どんな気持ちで仕事をしているのか家の人にインタビューしたり、実際に仕事をしている場面を観察したりして、上手に 	<p>○学びに向かう力, 人間性等</p> <p>進んで仕事をしようとして計画を立てている。</p> <p>○思考力, 判断力, 表現力等の基礎</p> <p>うまく仕事をするために、どんなやり方があるか考えている。</p>

<p>やるこつに気付く <u>(授業時間外に設定)</u>。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度仕事をやってみたいという意識をもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>思い・願い ・もう一度仕事をしたい。 ・1回目よりもうまくやりたい。</p> </div>	
<p>(7) 主体的・対話的な活動・体験② (授業時間外に設定) 『パワーアップ大作戦』</p> <p>○1回目「チャレンジ活動」の反省を生かし、2回目「パワーアップ大作戦」の仕事に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約10日間の期間を設け、作戦を立てた通りに実践する。 ・お家の人の助けは借りずに、一人で挑戦してみる。 	<p>○学びに向かう力, 人間性等 家族への愛着をもち、仕事をしようとしている。</p>
<p>(8) 気付きの共有④ (11時)</p> <p>○「パワーアップ大作戦」の期間中に振り返る活動を取り入れ、後半の取組につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半の取組について、うまくできたこととできなかったことを分類したり、仕事をしているときの気持ちを整理したりする。 ・仕事の仕方について、家の人と自分を比較してみる。(量、時間、手際、丁寧さ、気持ち等) ・家の人のことをどう思っているか問い、家族のために仕事をしている姿に気付く。 ・後半に向けての気持ちを高める。 	<p>○思考力, 判断力, 表現力等の基礎 仕事をして感じたことや家族への思いを表現している。</p>
<p>(9) 気付きの共有⑤ (12時~13時) 本時</p> <p>○仕事をする上でのお家の人の気持ちや自分自身の成長に気付き、家の人に感謝の手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「パワーアップ大作戦」を全体的に振り返り、特に前半と後半の比較により自分自身の変容に気付く。 ・家の人からの手紙を読み、自分自身の成長に気付く。 ・家の人への感謝の気持ちと自分自身の成長についての喜びを手紙に綴る。 <p>*13時は国語科や図画工作科と合科的に行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教科とつなぐ (国語・図画工作)</p> </div>	<p>○思考力, 判断力, 表現力等の基礎 仕事をして感じたことや家族への思いを表現している。</p> <p>○知識及び技能の基礎 自分が家族によって支えられていることに気付いている。</p> <p>○知識及び技能の基礎 自分自身が成長したことに気付いている。</p> <p>○学びに向かう力, 人間性等 家族への愛着をもち感謝の気持ちを表したり、今後も継続していこうという気持ちを表したりしている。</p>

5 本単元の指導の構想

(1) 気付きの質を高めるために、カリキュラムデザインにより単元を構築する。

本単元は、学習指導要領の内容(1)学校生活に関わる活動(2)家庭生活に関わる活動(9)自分自身の生活や成長を振り返る活動の3つを、カリキュラムマネジメントの視点から独自に編成したものである。特に「がっこうたんけん」の単元と深く関連付けながら進めていくことによって、学校で先生方や職員に支えられながら生活していることを構造的に理解した児童が、家庭という場に置き換えてみると、同じように家族によって支えられていることに自ら気付いていくことを期待している。

また、自分自身の成長を感じる単元の要素を組み入れることで、仕事に取り組み始めたばかりのころと終盤のころとの比較などにより、「できるようになったことが増えた」「上手にできるようになった」等の実感を伴って、自分の成長を理解できるであろうと考える。

(2) 学校探検をした1学期の学びを想起させることを通して、学習対象である「人」や「仕事」に目を向けさせる。

1学期の学校探検では、特別教室について、それぞれの教室がもつ機能とその部屋にある道具は関係がある(教室の役割と道具の役割との関係性)という関係的な気付きを得た。2学期は、学習対象を「ものから人へ」と移し、先生方や職員の仕事に焦点を当てる。人に注目するということは、その人が行っている仕事にも目を向けることになり、職員それぞれが自分の利益のためにしていることではなく、子どもたちのために精一杯仕事をしている姿に気付かせていきたい。そして、そこから「わたしの家ではどうかな。誰がどんな仕事をしているのかな。」と、自然な流れで家庭の仕事について意識を向けることが可能であると考えます。

(3) 『経験とつなぐ』『教科とつなぐ』ことを通して、家庭の仕事に取り組んでみようとする意識を高める。

仕事調べをしていく中で、主に母親や祖母が多くの家事を担っていること、自分の仕事は少ない(あるいは全くない)ことなどに容易に気付くことができると考える。子どもたちは1学期に、担任が毎日行う黒板消し、電気の消灯、配膳台ふきなどの仕事を徐々に手伝うようになり、何でも分担すればうまくいくのではないかという考えに端を発し、係の仕事を決めるに至った経験がある。「自分たちもできることをしたい。」という思いから、できそうな係活動を挙げ、分担をするという経験である。ここでは、家庭での自分の仕事が少ないという気付きと学校での係活動を「つなぐ」ことで、「このままでいいのか」「自分にできることは何かないか」との考えが自然と生まれてくるだろう。また、道徳教材で学んだ、黒板係の仕事を頑張る主人公の姿も想起させたい。これが本単元で大切にしたい『経験とつなぐ』『教科とつなぐ』である。家族が楽しい日々を過ごすためにはたくさんの仕事があるが、それを分担しながら協力して家庭生活を営んでいることに思いが巡るようにしていく。

(4) 質の異なる活動を繰り返し行い、少しずつ困難を克服することで、自分自身の成長を実感させる。

2回に渡るお仕事活動は、1回目を「チャレンジ活動」（1日のみ）、2回目を「パワーアップ大作戦」（10日間の期間を設ける）と名付け、ネーミングからも活動の違いが分かるようにする。まず、家の人と相談してどんな仕事ができるかを決めたら、「チャレンジ活動」に取り組む。やり方を聞きながら一人で挑戦したり、できないところは家の人と一緒にやったりしてみる活動である。実際にやってみることで、見ているだけでは気付かない仕事の難しさや大変さに気付かせたい。その上で、この振り返りやグループ内での情報交換、家の人からのアドバイスを生かしながら、次の「パワーアップ大作戦」に臨ませる。「パワーアップ大作戦」期間中も、経過を振り返る時間を途中に設け、家の人と自分の仕事を比較したり、家の人の仕事に対する気持ちを考えたりする活動を経て、家族のために仕事に取り組もうとする意識をもたせる。10日間の前半と後半を比較することで、「できるようになった自分」、「家族のことを考えられるようになった自分」を実感を伴って理解することができるであろう。

（５） 家庭との連携を図り、活動ごとの気づきや成長の様子を残すことで、活動場面を想起したり共有化したりすることの一助とする。

本単元では、主な活動の場が家庭であるため、各家庭の理解や協力が不可欠である。学年だより等を通じて協力の依頼をし、事前に保護者の理解を十分に得るようにする。親が子の成長を見取れる大切な機会でもあるため、一緒に取り組んだり見守ったりしながら、大いに関わっていくことを願う。具体的には、活動の様子を写真等で残してもらったり、ワークシート（活動の振り返り）を子どもが記述するだけでなく、親からも評価してもらったりする。そうすることで、変容を画像や言語で残しておくことができ、児童が授業においてもその場面を想起しやすくなると思われる。各家庭で行われる多様な活動の様子は見えにくく、学級内で共有しにくいものではあるが、担任や周囲の友達もどんな仕事をしたのかイメージをもつことができる。家庭生活の中での活動は見えづらいものであるからこそ、日々の記録を残すことが重要となってくる。

一方で、様々な家族の形態が存在し事情も異なるため、家庭の違いやよさを認めるように努め、児童が安心して取り組めるように配慮したい。

6 本時の構想（本時 12／13 時間）

（１） 本時のねらい

「パワーアップ大作戦」期間中の前半と後半を比較したり、お家の人からの手紙を読んだりすることを通して、自分自身の成長に気付くとともに、これまでに感じたお家の人への感謝の気持ちや自分自身の成長についての喜びを、手紙に書くことができる。

（２） 本時の構想

① これまでの活動を振り返ることで、本単元の終末に向かう気持ちを高める。

教室の壁面には、単元のはじめから本時までの流れが分かるように掲示してある。また、個人のファイルには、これまでの活動で用いたカード等を蓄積してある。それらを用いて、これまでやってきたことを簡単に振り返っていく。次時（国語科・図画工作科との合科的な授業）で手紙が完成し単元が終了するため、最後のまとめとなる意識をもたせたい。

② 「パワーアップ大作戦」期間中の前半（ビフォー）と後半（アフター）を比較することで、**自身の成長に気付かせる。**

「パワーアップ大作戦」期間中に、それまでの取組（途中経過）を振り返る時間を設けている。継続することの難しさを感じ始めたところに、どんなに忙しくても家族のために仕事をしている家の人たちの姿に気付いた児童は、後半の取組をもっとがんばろうと思えるだろう。そこで、前半と後半を比較することにより、「できなかったことができるようになった自分」「上手にできるようになった自分」「毎日継続することができた自分」「家族のために思いながら仕事ができるようになった自分」等、具体的な姿から自分自身が成長したことを実感させたい。

また、後半の取組を終えたところに、家の人から児童宛に手紙を書いてもらうように依頼しておき、家の人から見たがんばりを具体的に挙げて褒めてもらうようにする。他者からの客観的な称賛を得ることで、自分自身の成長を感じさせ、自己肯定感がもてるようにしたい。

③ **家の人に手紙を書くことで、家の人への感謝の思いと自分自身の成長を伝える。**

取組の比較や家の人からの手紙により自分自身の成長に気付いた児童に、このことを誰に伝えたいか問えば、きっと家の人に伝えたいとの思いが膨らむであろう。これまでの活動を通して感じた「ありがとう」の気持ちはもちろん、活動を通して自分自身が成長できたことへの喜びも伝えさせたい。また、各家庭での生活は仕事を分担、協力することによって成り立っていることにも気付かせ、今後も仕事を継続できるような意識をもたせたい。この意識こそが『経験とつなぐ』ことになる。

(3) 展開

時間	主な学習と予想される子どもの姿	○授業者の働きかけ ・留意点
5分	<p>1 これまでの活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の仕事をして楽しかったな。 ・チャレンジ活動でぼくは失敗したんだっけ。 ・パワーアップ大作戦はチャレンジ活動よりうまくいったな。 	<p>○今までどんな学習をしてきたのか、振り返ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示物や個人のカードをたどりながら、そのときどきの感想を交えてこれまでの活動を想起させる。
20分	<p>2 「パワーアップ大作戦」の前半と後半を比較して気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビフォーは○が少なくアフターは○が増えた。 ・やらないと家族が困ると思ってがんばったよ。 ・○が増えるようにがんばったのは、お母さんみたいになりたかったからだよ。 ・ビフォーは、○の日でもニコニコマークじゃなくてガッカリマークになっているところがある。仕事は終わったけど、片付けを忘れたからかな。 ・アフターはニコニコマークばかりだ。 	<p>○「パワーアップ大作戦」の前半と後半で○の数を比べてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事をした＝○，しない＝×の数を比較する。 ・○が増えた理由を考えさせる。 ・ずっと○がついていた児童には、どんな気持ちで○になるようにがんばったのかを問う。 <p>○ニコニコマークも比べてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の人を3段階で評価したものを比較する ・○の日でも、その仕事ぶりから家の人をニコニコマークをつけていない日もあること

	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧にやったからよかったのかな。 ・〇がつけばそれでいいんじゃないかって、家族のニコニコマークも増えなくちゃだめなんだね。 ・ニコニコマークが増えてきたってことは、喜んでもらえたってことだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気付かせ、その理由も考えさせる。 ・数人に発表させ、同じようなことが自分のカードにもあることを確かめさせる。 ・理由等を考えさせながら、関連のある記述を取り上げ広めていく。
5分	<p>3 家の人からの手紙を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一人でできなかったのに、できるようになったね」って書いてある。できるようになったのは、おばあちゃんのおかげだね。 ・「仕事が速くなったね」って書いてある。嬉しい。 ・「ママはすごく助かったよ」って書いてある。お母さんを少しでも助けることができて嬉しい。 ・「毎日きれいなお風呂に入れるのは△△のおかげだよ」って書いてある。喜んでもらえたんだね。 ・「□□もパワーアップしたね」って書いてある。ぼくはすごいってことだよ。 	<p>○実は、お家の人からの手紙を預かっています。どんなことが書いてあるか読んでみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に依頼しておき、児童が一人で読める程度の文章で書いてもらう。 ・家の中の立場から見て成長が感じられたことを具体的に書いてもらう。 ・数名の児童に全体の場で読んでもらい、自分だけじゃなくて友達もがんばっていたことを感じさせる。 <p>○仕事がパワーアップしただけじゃなくて、自分もパワーアップしたことが分かったね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「パワーアップ＝成長」だと気付かせる。
15分	<p>4 家の人への思いと自分自身の成長を伝えるため、家の人に向けて手紙を書く。</p> <p>(誰に)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やり方を教えてくれたお母さんに伝えたい。 ・やっているところを見ていなかったから、お父さんに知らせたい。 <p>(何を)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日大変な仕事をしているお母さんはすごい。 ・自分が疲れていても、私たちのためにがんばってくれてありがとう。 ・お母さんのおかげで上手にできるようになった。 ・はじめはできなかったことができるようになって嬉しい。 ・ぼくががんばると、家族が笑顔になることが分かった。 ・これからも仕事を続けて家族をニコニコにしたい。 	<p>○パワーアップした自分を誰に伝えたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手によって伝える内容が変わってくるので、具体的に家族の誰に宛てるかを決めさせる。 ・構造的板書に努め、対比によって自分自身の成長が視覚的にも分かるようにする。 ・キーワードを板書し、手紙を書くときに参考にさせる。 <p>○お家の人に手紙を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが難しい、大変だと感じた仕事をお家の人から毎日当たり前に行っている事実にも再度触れる。 ・何を書けばよいか考えられない児童には、「家族にどんな言葉をかけたらいいか」と想像させる。

6 児童の評価

① 知識及び技能の基礎

- ・「パワーアップ大作戦」の前半と後半を比較することや家の人からの手紙を読むことを通して、自分自身が成長したことに気付く。

② 思考力，判断力，表現力等の基礎

- ・仕事を体験して感じたことや家族への思いを表現する。

③ 学びに向かう力，人間性等

- ・家族への感謝の気持ちを表そうとする。
- ・家庭の仕事に関心を持ち，家族のために仕事を継続しようとする。

【評価方法】

- ①②③・・・発言，家の人への手紙